9

51さて、イエスが天に上げられる日が近づいたので、エル
サレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ、
52自分に先立って使者たちをおつかわしになった。そして
彼らがサマリヤ人の村へはいって行き、イエスのため
に準備をしようとしたところ、
53村人は、エルサレムへむかって進んで行かれるというの
で、イエスを歓迎しようとはしなかった。
54弟子のヤコブとヨハネとはそれを見て言った、「主よ、
いかがでしょう。彼らを焼き払ってしまうように、天
から火をよび求めましょうか」。
55イエスは振りかえって、彼らをおしかりになった。
56そして一同はほかの村へ行った。
57道を進んで行くと、ある人がイエスに言った、「あなた
がおいでになる所ならどこへでも従ってまいります」。
58イエスはその人に言われた、「きつねには穴があり、空
の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらする所
がない」。
59またほかの人に、「わたしに従ってきなさい」と言われ
た。するとその人が言った、「まず、父を葬りに行かせ
てください」。
60彼に言われた、「その死人を葬ることは、死人に任せて
おくがよい。あなたは、出て行って神の国を告げひろ
めなさい」。
61またほかの人が言った、「主よ、従ってまいりますが、
まず家の者に別れを言いに行かせてください」。
62イエスは言われた、「手をすきにかけてから、うしろを
見る者は、神の国にふさわしくないものである」。

10

1その後、主は別に七十二人を選び、行こうとしておられ
たすべての町や村へ、ふたりずつ先におつかわしになな
った。
2そのとき、彼らに言われた、「収穫は多いが、働き人が
少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のため
に働き人を送り出すようにしてもらいなさい。
3さあ、行きなさい。わたしがあなたがたをつかわすの
は、小羊をおおかみの中に送るようなものである。
4財布も袋もくつも持って行くな。だれにも道であいさつ
するな。
5どこかの家にはいったら、まず『平安がこの家にあるよ
うに』と言いなさい。
6もし平安の子がそこにおれば、あなたがたの祈る平安は
その人の上にとどまるであろう。もしそうでなかった
ら、それはあなたがたの上に帰って来るであろう。
7それで、その同じ家に留まっていて、家の人が出してく
れるものを飲み食いしなさい。働き人がその報いを得
るのは当然である。家から家へと渡り歩くな。
8どの町へはいっても、人々があなたがたを迎えてくれる
なら、前に出されるものを食べなさい。
9そして、その町にいる病人をいやしてやり、『神の国は
あなたがたに近づいた』と言いなさい。
10しかし、どの町へはいっても、人々があなたがたを迎え
ない場合には、大通りに出て行って言いなさい、
11『わたしたちの足についているこの町のちりも、ぬぐい
捨てて行く。しかし、神の国が近づいたことは、承知
しているがよい』。
12あなたがたに言っておく。その日には、この町よりもソ
ドムの方が耐えやすいであろう。
13わざわいだ、コラジンよ。わざわいだ、ベツサイダよ。
おまえたちの中でなされた力あるわざが、もしツロと
シドンでなされたなら、彼らはとうの昔に、荒布をま
とい灰の中にすわって、悔い改めたであろう。
14しかし、さばきの日には、ツロとシドンの方がおまえた
ちよりも、耐えやすいであろう。
15ああ、カペナウムよ、おまえは天にまで上げられようと
でもいうのか。黄泉にまで落されるであろう。
16あなたがたに聞き従う者は、わたしに聞き従うのであ
り、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。
そしてわたしを拒む者は、わたしをおつかわしになっ
たかたを拒むのである」。

10

17七十二人が喜んで帰ってきて言った、「主よ、あなたの
名によっていたしますと、悪霊までがわたしたちに
服従します」。
18彼らに言われた、「わたしはサタンが電光のように天か
ら落ちるのを見た。
19わたしはあなたがたに、へびやさそりを踏みつけ、敵の
あらゆる力に打ち勝つ権威を授けた。だから、あなた
がたに害をおよぼす者はまったく無いであろう。
20しかし、霊があなたがたに服従することを喜ぶな。むし
ろ、あなたがたの名が天にしるされていることを喜び
なさい」。
21そのとき、イエスは聖霊によって喜びあふれて言われ
た、「天地の主なる父よ。あなたをほめたたえます。こ
れらの事を知恵のある者や賢い者に隠して、幼な子に
あらわしてくださいました。父よ、これはまことに、
みこころにかなった事でした。
22すべての事は父からわたしに任せられています。そし
て、子がだれであるかは、父のほか知っている者はあ
りません。また父がだれであるかは、子と、父をあら
わそうとして子が選んだ者とのほか、だれも知ってい
る者はいません」。
23それから弟子たちの方に振りむいて、ひそかに言われ
た、「あなたがたが見ていることを見る目は、さいわい
である。
24あなたがたに言っておく。多くの預言者や王たちも、あ
なたがたの見ていることを見ようとしたが、見ること
ができず、あなたがたの聞いていることを聞こうとし
たが、聞けなかったのである」。

10

25するとそこへ、ある律法学者が現れ、イエスを試みよう
として言った、「先生、何をしたら永遠の生命が受けら
れましょうか」。
26彼に言われた、「律法にはなんと書いてあるか。あなた
はどう読むか」。
27彼は答えて言った、「『心をつくし、精神をつくし、力を
つくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せ
よ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を
愛せよ』とあります」。
28彼に言われた、「あなたの答は正しい。そのとおり行い
なさい。そうすれば、いのちが得られる」。
29すると彼は自分の立場を弁護しようと思って、イエスに
言った、「では、わたしの隣り人とはだれのことです
か」。
30イエスが答えて言われた、「ある人がエルサレムからエ
リコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その
着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃
げ去った。
31するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきた
が、この人を見ると、向こう側を通って行った。
32同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を
見ると向こう側を通って行った。
33ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを
通りかかり、彼を見て気の毒に思い、
34近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほ
うたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて
行って介抱した。
35翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、
『この人を見てやってください。費用がよけいにかかっ
たら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。
36この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人にな
ったと思うか」。
37彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そ
こでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにし
なさい」。

10

38一同が旅を続けているうちに、イエスがある村へはいら
れた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え
入れた。
39この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわっ
て、御言に聞き入っていた。
40ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとりみ
だし、イエスのところにきて言った、「主よ、妹がわた
しだけに接待をさせているのを、なんともお思いになり
ませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃ
ってください」。
41主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは
多くのことに心を配って思いわずらっている。
42しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだ
けである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そして
それは、彼女から取り去ってはならないものである」。

11

1また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終っ
たとき、弟子のひとりが言った、「主よ、ヨハネがその
弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを
教えてください」。
2そこで彼らに言われた、「祈るときには、こう言いなさ
い、『父よ、御名があがめられますように。御国がきま
すように。
3わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください。
4わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたし
たちの罪をもおゆるしください。わたしたちを試みに
会わせないでください』」。
5そして彼らに言われた、「あなたがたのうちのだれかに、
友人があるとして、その人のところへ真夜中に行き、
『友よ、パンを三つ貸してください。
6友だちが旅先からわたしのところに着いたのですが、何
も出すものがありませんから』と言った場合、
7彼は内から、『面倒をかけないでくれ。もう戸は締めて
しまったし、子供たちもわたしと一緒に床にはいって
いるので、いま起きて何もあげるわけにはいかない』
と言うであろう。
8しかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起き
て与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要
なものを出してくれるであろう。
9そこでわたしはあなたがたに言う。求めよ、そうすれ
ば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだす
であろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえる
であろう。
10すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者
はあけてもらえるからである。
11あなたがたのうちで、父であるものは、その子が魚を求
めるのに、魚の代りにへびを与えるだろうか。
12卵を求めるのに、さそりを与えるだろうか。
13このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の
子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれ
ば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さら
ないことがあろうか」。

11
14さて、イエスが悪霊を追い出しておられた。それは、おしの霊であった。悪霊が出て行くと、おしが物を言うようになったので、群衆は不思議に思った。
15その中のある人々が、「彼は悪霊のかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ」と言い、
16またほかの人々は、イエスを試みようとして、天からのしるしを求めた。
17しかしイエスは、彼らの思いを見抜いて言われた、「おおよそ国が内部で分裂すれば自滅してしまい、また家が分れ争えば倒れてしまう。
18そこでサタンも内部で分裂すれば、その国はどうして立ち行けよう。あなたがたはわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出していると言うが、
19もしわたしがベルゼブルによって悪霊を追い出すとすれば、あなたがたの仲間はだれによって追い出すのであろうか。だから、彼らがあなたがたをさばく者となるであろう。
20しかし、わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところにきたのである。
21強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である。
22しかし、もっと強い者が襲ってきて彼に打ち勝てば、その頼みにしていた武具を奪って、その分捕品を分けるのである。
23わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである。
24汚れた霊が人から出ると、休み場を求めて水の無い所を歩きまわるが、見つからないので、出てきた元の家に帰ろうと言って、
25帰って見ると、その家はそうじがしてある上、飾りつけがしてあった。
26そこでまた出て行って、自分以上に悪い他の七つの霊を引き連れてきて中にはいり、そこに住み込む。そうすると、その人の後の状態は初めよりももっと悪くなるのである」。

11
27イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言った、「あなたを宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」。
28しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」。

11
29さて群衆が群がり集まったので、イエスは語り出され
た、「この時代は邪悪な時代である。それはしるしを求
めるが、ヨナのしるしのほかには、なんのしるしも与
えられないであろう。
30というのは、ニネベの人々に対してヨナがしるしとなっ
たように、人の子もこの時代に対してしるしとなるで
あろう。
31南の女王が、今の時代の人々と共にさばきの場に立っ
て、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、彼女はソ
ロモンの知恵を聞くために、地の果からはるばるきた
からである。しかし見よ、ソロモンにまさる者がここ
にいる。
32ニネベの人々が、今の時代の人々と共にさばきの場に立
って、彼らを罪に定めるであろう。なぜなら、ニネベ
の人々はヨナの宣教によって悔い改めたからである。
しかし見よ、ヨナにまさる者がここにいる。
33だれもあかりをともして、それを穴倉の中や枡の下に置
くことはしない。むしろはいって来る人たちに、その
あかりが見えるように、燭台の上におく。
34あなたの目は、からだのあかりである。あなたの目が澄
んでおれば、全身も明るいが、目がわるければ、から
だも暗い。
35だから、あなたの内なる光が暗くならないように注意し
なさい。
36もし、あなたのからだ全体が明るくて、暗い部分が少し
もなければ、ちょうど、あかりが輝いてあなたを照す
時のように、全身が明るくなるであろう」。

11
37イエスが語っておられた時、あるパリサイ人が、自分の
家で食事をしていただきたいと申し出たので、はいっ
て食卓につかれた。
38ところが、食前にまず洗うことをなさらなかったのを見
て、そのパリサイ人が不思議に思った。
39そこで主は彼に言われた、「いったい、あなたがたパリ
サイ人は、杯や盆の外側をきよめるが、あなたがたの
内側は貪欲と邪悪とで満ちている。
40愚かな者たちよ、外側を造ったかたは、また内側も造ら
れたではないか。
41ただ、内側にあるものをきよめなさい。そうすれば、い
っさいがあなたがたにとって、清いものとなる。
42しかし、あなた方パリサイ人は、わざわいである。はっ
か、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を宮に納め
ておりながら、義と神に対する愛とをなおざりにして
いる。それもなおざりにはできないが、これは行わね
ばならない。
43あなたがたパリサイ人は、わざわいである。会堂の上席
や広場での敬礼を好んでいる。
44あなたがたは、わざわいである。人目につかない墓のよ
うなものである。その上を歩いても人々は気づかない
でいる」。
45ひとりの律法学者がイエスに答えて言った、「先生、そ
んなことを言われるのは、わたしたちまでも侮辱する
ことです」。
46そこで言われた、「あなたがた律法学者も、わざわいで
ある。負い切れない重荷を人に負わせながら、自分で
はその荷に指一本でも触れようとしない。
47あなたがたは、わざわいである。預言者たちの碑を建て
るが、しかし彼らを殺したのは、あなたがたの先祖で
あったのだ。
48だから、あなたがたは、自分の先祖のしわざに同意する
証人なのだ。先祖が彼らを殺し、あなたがたがその碑
を建てるのだから。
49それゆえに、『神の知恵』も言っている、『わたしは
預言者と使徒とを彼らにつかわすが、彼らはそのうち
のある者を殺したり、迫害したりするであろう』。
50それで、アベルの血から祭壇と神殿との間で殺されたザ
カリヤの血に至るまで、世の初めから流されてきたす
べての預言者の血について、この時代がその責任を問
われる。
51そうだ、あなたがたに言っておく、この時代がその責任
を問われるであろう。
52あなたがた律法学者は、わざわいである。知識のかぎを
取りあげて、自分がはいらないばかりか、はいろうと
する人たちを妨げてきた」。
53イエスがそこを出て行かれると、律法学者やパリサイ人
は、激しく詰め寄り、いろいろな事を問いかけて、
54イエスの口から何か言いがかりを得ようと、ねらいはじ
めた。

12

1その間に、おびただしい群衆が、互に踏み合うほどに群
がってきたが、イエスはまず弟子たちに語りはじめら
れた、「パリサイ人のパン種、すなわち彼らの偽善に気
をつけなさい。
2おおいかぶされたもので、現れてこないものはなく、隠
れているもので、知られてこないものはない。
3だから、あなたがたが暗やみで言ったことは、なんでも
みな明るみで聞かれ、密室で耳にささやいたことは、
屋根の上で言いひろめられるであろう。
4そこでわたしの友であるあなたがたに言うが、からだを
殺しても、そのあとでそれ以上なにもできない者ども
を恐れるな。
5恐るべき者がだれであるか、教えてあげよう。殺したあ
とで、更に地獄に投げ込む権威のあるかたを恐れなさ
い。そうだ、あなたがたに言っておくが、そのかたを
恐れなさい。
6五羽のすずめは二アサリオンで売られているではない
か。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはい
ない。
7その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられてい
る。恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよ
りも、まさった者である。
8そこで、あなたがたに言う。だれでも人の前でわたしを
受けいれる者を、人の子も神の使たちの前で受けいれ
るであろう。
9しかし、人の前でわたしを拒む者は、神の使たちの前で
拒まれるであろう。
10また、人の子に言い逆らう者はゆるされるであろうが、
聖霊をけがす者は、ゆるされることはない。
11あなたがたが会堂や役人や高官の前へひっぱられて行っ
た場合には、何をどう弁明しようか、何を言おうかと
心配しないがよい。
12言うべきことは、聖霊がその時に教えてくださるからで
ある」。

12
13群衆の中のひとりがイエスに言った、「先生、わたしの
兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってくだ
さい」。
14彼に言われた、「人よ、だれがわたしをあなたがたの
裁判人または分配人に立てたのか」。
15それから人々にむかって言われた、「あらゆる貪欲に対
してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持
っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないので
ある」。
16そこで一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であ
った。
17そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物を
しまっておく所がないのだが』と思いめぐらして
18言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっ
と大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまい
込もう。
19そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年
分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、
食え、飲め、楽しめ』。
20すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は
今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あ
なたが用意した物は、だれのものになるのか』。
21自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これ
と同じである」。
22それから弟子たちに言われた、「それだから、あなたが
たに言っておく。何を食べようかと、命のことで思い
わずらい、何を着ようかとからだのことで思いわずら
うな。
23命は食物にまさり、からだは着物にまさっている。
24からすのことを考えて見よ。まくことも、刈ることもせ
ず、また、納屋もなく倉もない。それだのに、神は彼
らを養っていて下さる。あなたがたは鳥よりも、はる
かにすぐれているではないか。
25あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、
自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。
26そんな小さな事さえできないのに、どうしてほかのこと
を思いわずらうのか。
27野の花のことを考えて見るがよい。紡ぎもせず、織りも
しない。しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめ
た時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾っ
てはいなかった。
28きょうは野にあって、あすは炉に投げ入れられる草でさ
え、神はこのように装って下さるのなら、あなたがた
に、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。
ああ、信仰の薄い者たちよ。
29あなたがたも、何を食べ、何を飲もうかと、あくせくす
るな、また気を使うな。
30これらのものは皆、この世の異邦人が切に求めているも
のである。あなたがたの父は、これらのものがあなた
がたに必要であることを、ご存じである。
31ただ、御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは
添えて与えられるであろう。
32恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなた
がたの父のみこころなのである。
33自分の持ち物を売って、施しなさい。自分のために古び
ることのない財布をつくり、盗人も近寄らず、虫も食
い破らない天に、尽きることのない宝をたくわえなさ
い。
34あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。

12
35腰に帯をしめ、あかりをともしていなさい。
36主人が婚宴から帰ってきて戸をたたくとき、すぐあけて
あげようと待っている人のようにしていなさい。
37主人が帰ってきたとき、目を覚しているのを見られる僕
たちは、さいわいである。よく言っておく。主人が帯
をしめて僕たちを食卓につかせ、進み寄って給仕をし
てくれるであろう。
38主人が夜中ごろ、あるいは夜明けごろに帰ってきても、
そうしているのを見られるなら、その人たちはさいわ
いである。
39このことを、わきまえているがよい。家の主人は、盗賊
がいつごろ来るかわかっているなら、自分の家に押し
入らせはしないであろう。
40あなたがたも用意していなさい。思いがけない時に人の
子が来るからである」。
41するとペテロが言った、「主よ、この譬を話しておられ
るのはわたしたちのためなのですか。それとも、みん
なの者のためなのですか」。
42そこで主が言われた、「主人が、召使たちの上に立てて、
時に応じて定めの食事をそなえさせる忠実な思慮深い
家令は、いったいだれであろう。
43主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見
られる僕は、さいわいである。
44よく言っておくが、主人はその僕を立てて自分の全財産
を管理させるであろう。
45しかし、もしその僕が、主人の帰りがおそいと心の中で
思い、男女の召使たちを打ちたたき、そして食べたり、
飲んだりして酔いはじめるならば、
46その僕の主人は思いがけない日、気がつかない時に帰っ
て来るであろう。そして、彼を厳罰に処して、不忠実
なものたちと同じ目にあわせるであろう。
47主人のこころを知っていながら、それに従って用意もせ
ず勤めもしなかった僕は、多くむち打たれるであろう。
48しかし、知らずに打たれるようなことをした者は、打た
れ方が少ないだろう。多く与えられた者からは多く求
められ、多く任せられた者からは更に多く要求される
のである。
49わたしは、火を地上に投じるためにきたのだ。火がすで
に燃えていたならと、わたしはどんなに願っているこ
とか。
50しかし、わたしには受けねばならないバプテスマがあ
る。そして、それを受けてしまうまでは、わたしはど
んなにか苦しい思いをすることであろう。
51あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらすため
にきたと思っているのか。あなたがたに言っておく。
そうではない。むしろ分裂である。
52というのは、今から後は、一家の内で五人が相分れて、
三人はふたりに、ふたりは三人に対立し、
53また父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、しゅう
とめは嫁に、嫁はしゅうとめに、対立するであろう」。

12
54イエスはまた群衆に対しても言われた、「あなたがたは、
雲が西に起るのを見るとすぐ、にわか雨がやって来る、
と言う。果してそのとおりになる。
55それから南風が吹くと、暑つくなるだろう、と言う。果
してそのとおりになる。
56偽善者よ、あなたがたは天地の模様を見分けることを知
りながら、どうして今の時代を見分けることができな
いのか。
57また、あなたがたは、なぜ正しいことを自分で判断しな
いのか。
58たとえば、あなたを訴える人と一緒に役人のところへ行
くときには、途中でその人と和解するように努めるが
よい。そうしないと、その人はあなたを裁判官のとこ
ろへひっぱって行き、裁判官はあなたを獄吏に引き渡
し、獄吏はあなたを獄に投げ込むであろう。
59わたしは言って置く、最後の一レプタまでも支払ってし
まうまでは、決してそこから出て来ることはできな
い」。

13

1ちょうどその時、ある人々がきて、ピラトがガリラヤ人
たちの血を流し、それを彼らの犠牲の血に混ぜたこと
を、イエスに知らせた。
2そこでイエスは答えて言われた、「それらのガリラヤ人
が、そのような災難にあったからといって、他のすべ
てのガリラヤ人以上に罪が深かったと思うのか。
3あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い
改めなければ、みな同じように滅びるであろう。
4また、シロアムの塔が倒れたためにおし殺されたあの十
八人は、エルサレムの他の全住民以上に罪の負債があ
ったと思うか。
5あなたがたに言うが、そうではない。あなたがたも悔い
改めなければ、みな同じように滅びるであろう」。
6それから、この譬を語られた、「ある人が自分のぶどう
園にいちじくの木を植えて置いたので、実を捜しにき
たが見つからなかった。
7そこで園丁に言った、『わたしは三年間も実を求めて、
このいちじくの木のところにきたのだが、いまだに見
あたらない。その木を切り倒してしまえ。なんのため
に、土地をむだにふさがせて置くのか』。
8すると園丁は答えて言った、『ご主人様、ことしも、そ
のままにして置いてください。そのまわりを掘って
肥料をやって見ますから。
9それで来年実がなりましたら結構です。もしそれでもだ
めでしたら、切り倒してください』。

13

10安息日に、ある会堂で教えておられると、
11そこに十八年間も病気の霊につかれ、かがんだままで、
からだを伸ばすことの全くできない女がいた。
12イエスはこの女を見て、呼びよせ、「女よ、あなたの
病気はなおった」と言って、
13手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのから
だがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。
14ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされた
ことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は
六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。
安息日にはいけない」。
15主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたが
たはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを
家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるで
はないか。
16それなら、十八年間もサタンに縛られていた、アブラハ
ムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛
から解いてやるべきではなかったか」。
17こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな
恥じ入った。そして群衆はこぞって、イエスがなされ
たすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。
18そこで言われた、「神の国は何に似ているか。またそれ
を何にたとえようか。
19一粒のからし種のようなものである。ある人がそれを取
って庭にまくと、育って木となり、空の鳥もその枝に
宿るようになる」。
20また言われた、「神の国を何にたとえようか。
21パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉
の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。

13
22さてイエスは教えながら町々村々を通り過ぎ、エルサレ
ムへと旅を続けられた。
23すると、ある人がイエスに、「主よ、救われる人は少な
いのですか」と尋ねた。
24そこでイエスは人々にむかって言われた、「狭い戸口か
らはいるように努めなさい。事実、はいろうとしても、
はいれない人が多いのだから。
25家の主人が立って戸を閉じてしまってから、あなたがた
が外に立ち戸をたたき始めて、『ご主人様、どうぞあけ
てください』と言っても、主人はそれに答えて、『あな
たがたがどこからきた人なのか、わたしは知らない』
と言うであろう。
26そのとき、『わたしたちはあなたとご一緒に飲み食いし
ました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えて
くださいました』と言い出しても、
27彼は、『あなたがたがどこからきた人なのか、わたしは
知らない。悪事を働く者どもよ、みんな行ってしまえ』
と言うであろう。
28あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての
預言者たちが、神の国にはいっているのに、自分たち
は外に投げ出されることになれば、そこで泣き叫んだ
り、歯がみをしたりするであろう。
29それから人々が、東から西から、また南から北からきて
、神の国で宴会の席につくであろう。
30こうしてあとのもので先になるものがあり、また、先の
ものであとになるものもある」。
31ちょうどその時、あるパリサイ人たちが、イエスに近寄
ってきて言った、「ここから出て行きなさい。ヘロデが
あなたを殺そうとしています」。
32そこで彼らに言われた、「あのきつねのところへ行って
こう言え、『見よ、わたしはきょうもあすも悪霊を追い
出し、また、病気をいやし、そして三日目にわざを終
えるであろう。
33しかし、きょうもあすも、またその次の日も、わたしは
進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の
地で死ぬことは、あり得ないからである』。
34ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、お
まえにつかわされた人々を石で打ち殺す者よ。ちょう
どめんどりが翼の下にひなを集めるように、わたしは
おまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。
それだのに、おまえたちは応じようとしなかった。
35見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう。わたしは
言って置く、『主の名によってきたるものに、祝福あ
れ』
とおまえたちが言う時の来るまでは、再びわたしに会う
ことはないであろう」。

14
1ある安息日のこと、食事をするために、あるパリサイ派
のかしらの家にはいって行かれたが、人々はイエスの
様子をうかがっていた。
2するとそこに、水腫をわずらっている人が、みまえにい
た。
3イエスは律法学者やパリサイ人たちにむかって言われ
た、「安息日に人をいやすのは、正しいことかどうか」。
4彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いて
いやしてやり、そしてお帰しになった。
5それから彼らに言われた、「あなたがたのうちで、自分
のむすこか牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だから
といって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろう
か」。
6彼らはこれに対して返す言葉がなかった。
7客に招かれた者たちが上座を選んでいる様子をごらんに
なって、彼らに一つの譬を語られた。
8「婚宴に招かれたときには、上座につくな。あるいは、
あなたよりも身分の高い人が招かれているかも知れな
い。
9その場合、あなたとその人とを招いた者がきて、『この
かたに座を譲ってください』と言うであろう。そのと
き、あなたは恥じ入って末座につくことになるであろ
う。
10むしろ、招かれた場合には、末座に行ってすわりなさ
い。そうすれば、招いてくれた人がきて、『友よ、上座
の方へお進みください』と言うであろう。そのとき、
あなたは席を共にするみんなの前で、面目をほどこす
ことになるであろう。
11おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くす
る者は高くされるであろう」。

14
12また、イエスは自分を招いた人に言われた、「午餐また
は晩餐の席を設ける場合には、友人、兄弟、親族、
金持の隣り人などは呼ばぬがよい。恐らく彼らもあな
たを招きかえし、それであなたは返礼を受けることに
なるから。
13むしろ、宴会を催す場合には、貧乏人、不具者、足な
え、盲人などを招くがよい。
14そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさい
わいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あ
なたは報いられるであろう」。
15列席者のひとりがこれを聞いてイエスに「神の国で食事
をする人は、さいわいです」と言った。
16そこでイエスが言われた、「ある人が盛大な晩餐会を催
して、大ぜいの人を招いた。
17晩餐の時刻になったので、招いておいた人たちのもとに
僕を送って、『さあ、おいでください。もう準備ができ
ましたから』と言わせた。
18ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の人は、
『わたしは土地を買いましたので、行って見なければな
りません。どうぞ、おゆるしください』と言った。
19ほかの人は、『わたしは五対の牛を買いましたので、そ
れをしらべに行くところです。どうぞ、おゆるしくだ
さい』、
20もうひとりの人は、『わたしは妻をめとりましたので、
参ることができません』と言った。
21僕は帰ってきて、以上の事を主人に報告した。すると家
の主人はおこって僕に言った、『いますぐに、町の大通
りや小道へ行って、貧乏人、不具者、盲人、足なえな
どを、ここへ連れてきなさい』。
22僕は言った、『ご主人様、仰せのとおりにいたしました
が、まだ席がございます』。
23主人が僕に言った、『道やかきねのあたりに出て行って、
この家がいっぱいになるように、人々を無理やりにひ
っぱってきなさい。
24あなたがたに言って置くが、招かれた人で、わたしの
晩餐にあずかる者はひとりもないであろう』」。

14
25大ぜいの群衆がついてきたので、イエスは彼らの方に向
いて言われた、
26「だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分
の命までも捨てて、わたしのもとに来るのでなければ、
わたしの弟子となることはできない。
27自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなけれ
ば、わたしの弟子となることはできない。
28あなたがたのうちで、だれかが邸宅を建てようと思うな
ら、それを仕上げるのに足りるだけの金を持っている
かどうかを見るため、まず、すわってその費用を計算
しないだろうか。
29そうしないと、土台をすえただけで完成することができ
ず、見ているみんなの人が、
30『あの人は建てかけたが、仕上げができなかった』と言
ってあざ笑うようになろう。
31また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えるために出
て行く場合には、まず座して、こちらの一万人をもっ
て、二万人を率いて向かって来る敵に対抗できるかど
うか、考えて見ないだろうか。
32もし自分の力にあまれば、敵がまだ遠くにいるうちに、
使者を送って、和を求めるであろう。
33それと同じように、あなたがたのうちで、自分の財産を
ことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子と
なることはできない。
34塩は良いものだ。しかし、塩もききめがなくなったら、
何によって塩味が取りもどされようか。
35土にも肥料にも役立たず、外に投げ捨てられてしまう。
聞く耳のあるものは聞くがよい」。

15

1さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。
2するとパリサイ人や律法学者たちがつぶやいて、「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。
3そこでイエスは彼らに、この譬をお話しになった、
4「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。
5そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、
6家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。
7よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。
8また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。
9そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであろう。
10よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう」。

15

11また言われた、「ある人に、ふたりのむすこがあった。
12ところが、弟が父親に言った、『父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください』。そこで、父はその身代をふたりに分けてやった。
13それから幾日もたたないうちに、弟は自分のものを全部とりまとめて遠い所へ行き、そこで放蕩に身を持ちくずして財産を使い果した。
14何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいききんがあったので、彼は食べることにも窮しはじめた。
15そこで、その地方のある住民のところに行って身を寄せたところが、その人は彼を畑にやって豚を飼わせた。
16彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。
17そこで彼は本心に立ちかえって言った、『父のところには食物のあり余っている雇人が大ぜいいるのに、わたしはここで飢えて死のうとしている。
18立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。
19もう、あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇人のひとり同様にしてください』。
20そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。
21むすこは父に言った、『父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もうあなたのむすこと呼ばれる資格はありません』。
22しかし父は僕たちに言いつけた、『さあ、早く、最上の着物を出してきてこの子に着せ、指輪を手にはめ、はきものを足にはかせなさい。
23また、肥えた子牛を引いてきてほふりなさい。食べて楽しもうではないか。
24このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから』。それから祝宴がはじまった。
25ところが、兄は畑にいたが、帰ってきて家に近づくと、音楽や踊りの音が聞えたので、
26ひとりの僕を呼んで、『いったい、これは何事なのか』と尋ねた。
27僕は答えた、『あなたのご兄弟がお帰りになりました。無事に迎えたというので、父上が肥えた子牛をほふらせなさったのです』。
28兄はおこって家にはいろうとしなかったので、父が出てきてなだめると、
29兄は父にむかって言った、『わたしは何か年もあなたに仕えて、一度でもあなたの言いつけにそむいたことはなかったのに、友だちと楽しむために子やぎ一匹も下さったことはありません。
30それだのに、遊女どもと一緒になって、あなたの身代を食いつぶしたこのあなたの子が帰ってくると、そのために肥えた子牛をほふりなさいました』。
31すると父は言った、『子よ、あなたはいつもわたしと一緒にいるし、またわたしのものは全部あなたのものだ。
32しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』」。

16

1イエスはまた、弟子たちに言われた、「ある金持のとこ
ろにひとりの家令がいたが、彼は主人の財産を浪費し
ていると、告げ口をする者があった。
2そこで主人は彼を呼んで言った、『あなたについて聞い
ていることがあるが、あれはどうなのか。あなたの
会計報告を出しなさい。もう家令をさせて置くわけに
はいかないから』。
3この家令は心の中で思った、『どうしようか。主人がわ
たしの職を取り上げようとしている。土を掘るには力
がないし、物ごいするのは恥ずかしい。
4そうだ、わかった。こうしておけば、職をやめさせられ
る場合、人々がわたしをその家に迎えてくれるだろ
う』。
5それから彼は、主人の負債者をひとりびとり呼び出し
て、初めの人に、『あなたは、わたしの主人にどれだけ
負債がありますか』と尋ねた。
6『油百樽です』と答えた。そこで家令が言った、『ここ
にあなたの証書がある。すぐそこにすわって、五十樽
と書き変えなさい』。
7次に、もうひとりに、『あなたの負債はどれだけですか』
と尋ねると、『麦百石です』と答えた。これに対して、
『ここに、あなたの証書があるが、八十石と書き変えな
さい』と言った。
8ところが主人は、この不正な家令の利口なやり方をほめ
た。この世の子らはその時代に対しては、光の子らよ
りも利口である。

16

9またあなたがたに言うが、不正の富を用いてでも、自分
のために友だちをつくるがよい。そうすれば、富が無
くなった場合、あなたがたを永遠のすまいに迎えてく
れるであろう。
10小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事
に不忠実な人は大事にも不忠実である。
11だから、もしあなたがたが不正の富について忠実でなか
ったら、だれが真の富を任せるだろうか。
12また、もしほかの人のものについて忠実でなかったら、
だれがあなたがたのものを与えてくれようか。
13どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできな
い。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親し
んで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神
と富とに兼ね仕えることはできない」。

16
14欲の深いパリサイ人たちが、すべてこれらの言葉を聞い
て、イエスをあざ笑った。
15そこで彼らにむかって言われた、「あなたがたは、人々
の前で自分を正しいとする人たちである。しかし、神
はあなたがたの心をご存じである。人々の間で尊ばれ
るものは、神のみまえでは忌みきらわれる。
16律法と預言者とはヨハネの時までのものである。それ
以来、神の国が宣べ伝えられ、人々は皆これに突入し
ている。
17しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びる方
が、もっとたやすい。
18すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行
うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、
姦淫を行うものである。

16
19ある金持がいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日ぜいた
くに遊び暮していた。
20ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれ
て、この金持の玄関の前にすわり、
21その食卓から落ちるもので飢えをしのごうと望んでい
た。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。
22この貧乏人がついに死に、御使たちに連れられてアブラ
ハムのふところに送られた。金持も死んで葬られた。
23そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラ
ハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見え
た。
24そこで声をあげて言った、『父、アブラハムよ、わたし
をあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、
その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてくだ
さい。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえていま
す』。
25アブラハムが言った、『子よ、思い出すがよい。あなた
は生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受け
た。しかし今ここでは、彼は慰められ、あなたは苦し
みもだえている。
26そればかりか、わたしたちとあなたがたとの間には大き
な淵がおいてあって、こちらからあなたがたの方へ渡
ろうと思ってもできないし、そちらからわたしたちの
方へ越えて来ることもできない』。
27そこで金持が言った、『父よ、ではお願いします。わた
しの父の家へラザロをつかわしてください。
28わたしに五人の兄弟がいますので、こんな苦しい所へ来
ることがないように、彼らに警告していただきたいの
です』。
29アブラハムは言った、『彼らにはモーセと預言者とがあ
る。それに聞くがよかろう』。
30金持が言った、『いえいえ、父アブラハムよ、もし死人
の中からだれかが兄弟たちのところへ行ってくれまし
たら、彼らは悔い改めるでしょう』。
31アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者とに
耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者
があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであ
ろう』。

17

1イエスは弟子たちに言われた、「罪の誘惑が来ることは
避けられない。しかし、それをきたらせる者は、わざ
わいである。
2これらの小さい者のひとりを罪に誘惑するよりは、むし
ろ、ひきうすを首にかけられて海に投げ入れられた方
が、ましである。
3あなたがたは、自分で注意していなさい。もしあなたの
兄弟が罪を犯すなら、彼をいさめなさい。そして悔い
改めたら、ゆるしてやりなさい。
4もしあなたに対して一日に七度罪を犯し、そして七度
『悔い改めます』と言ってあなたのところへ帰ってくれ
ば、ゆるしてやるがよい。
5使徒たちは主に「わたしたちの信仰を増してください」
と言った。
6そこで主が言われた、「もし、からし種一粒ほどの信仰
があるなら、この桑の木に、『抜け出して海に植われ』
と言ったとしても、その言葉どおりになるであろう。
7あなたがたのうちのだれかに、耕作か牧畜かをする僕が
あるとする。その僕が畑から帰って来たとき、彼に
『すぐきて、食卓につきなさい』と言うだろうか。
8かえって、『夕食の用意をしてくれ。そしてわたしが飲
み食いをするあいだ、帯をしめて給仕をしなさい。そ
のあとで、飲み食いをするがよい』と、言うではない
か。
9僕が命じられたことをしたからといって、主人は彼に
感謝するだろうか。
10同様にあなたがたも、命じられたことを皆してしまった
とき、『わたしたちはふつつかな僕です。すべき事をし
たに過ぎません』と言いなさい。

17

11イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラ
ヤとの間を通られた。
12そして、ある村にはいられると、十人のらい病人に出会
われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、
13声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれん
でください」と言った。
14イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに
行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、
行く途中で彼らはきよめられた。
15そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、
大声で神をほめたたえながら帰ってきて、
16イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ
人であった。
17イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、
十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。
18神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人
のほかにはいないのか」。
19それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あ
なたの信仰があなたを救ったのだ」。

17

20神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イ
エスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで
来るものではない。
21また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言
えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるの
だ」。
22それから弟子たちに言われた、「あなたがたは、人の子
の日を一日でも見たいと願っても見ることができない
時が来るであろう。
23人々はあなたがたに、『見よ、あそこに』『見よ、ここ
に』と言うだろう。しかし、そちらへ行くな、彼らの
あとを追うな。
24いなずまが天の端からひかり出て天の端へとひらめき渡
るように、人の子もその日には同じようであるだろう。
25しかし、彼はまず多くの苦しみを受け、またこの時代の
人々に捨てられねばならない。
26そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様
なことが起るであろう。
27ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めと
り、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、
彼らをことごとく滅ぼした。
28ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲
み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、
29ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが
降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。
30人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。
31その日には、屋上にいる者は、自分の持ち物が家の中に
あっても、取りにおりるな。畑にいる者も同じように、
あとへもどるな。
32ロトの妻のことを思い出しなさい。
33自分の命を救おうとするものは、それを失い、それを失
うものは、保つのである。
34あなたがたに言っておく。その夜、ふたりの男が一つ
寝床にいるならば、ひとりは取り去られ、他のひとり
は残されるであろう。
35ふたりの女が一緒にうすをひいているならば、ひとりは
取り去られ、他のひとりは残されるであろう。〔
36ふたりの男が畑におれば、ひとりは取り去られ、他のひ
とりは残されるであろう〕」。
37弟子たちは「主よ、それはどこであるのですか」と尋ね
た。するとイエスは言われた、「死体のある所には、ま
たはげたかが集まるものである」。

18

1また、イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に
譬で教えられた。
2「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がい
た。
3ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼のも
とにたびたびきて、『どうぞ、わたしを訴える者をさば
いて、わたしを守ってください』と願いつづけた。
4彼はしばらくの間きき入れないでいたが、そののち、心
のうちで考えた、『わたしは神をも恐れず、人を人とも
思わないが、
5このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のために
なる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってき
てわたしを悩ますことがなくなるだろう』。
6そこで主は言われた、「この不義な裁判官の言っている
ことを聞いたか。
7まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさば
きをしてくださらずに長い間そのままにしておかれる
ことがあろうか。
8あなたがたに言っておくが、神はすみやかにさばいてく
ださるであろう。しかし、人の子が来るとき、地上に
信仰が見られるであろうか」。

18
9自分を義人だと自任して他人を見下げている人たちに対
して、イエスはまたこの譬をお話しになった。
10「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパ
リサイ人であり、もうひとりは取税人であった。
11パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わ
たしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、
姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような
人間でもないことを感謝します。
12わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一を
ささげています』。
13ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけよう
ともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人の
わたしをおゆるしください』と。
14あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰
ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人では
なかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、
自分を低くする者は高くされるであろう」。

18
15イエスにさわっていただくために、人々が幼な子らをみ
もとに連れてきた。ところが、弟子たちはそれを見て、
彼らをたしなめた。
16するとイエスは幼な子らを呼び寄せて言われた、「幼な
子らをわたしのところに来るままにしておきなさい、
止めてはならない。神の国はこのような者の国である。
17よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国
を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決し
てできない」。
18また、ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をし
たら永遠の生命が受けられましょうか」。
19イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。
神ひとりのほかによい者はいない。
20いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫す
るな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを
敬え』」。
21すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時か
ら守っております」。
22イエスはこれを聞いて言われた、「あなたのする事がま
だ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、
貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝
を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさ
い」。
23彼はこの言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であった
からである。
24イエスは彼の様子を見て言われた、「財産のある者が神
の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。
25富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴
を通る方が、もっとやさしい」。
26これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われること
ができるのですか」と尋ねると、
27イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはでき
る」。
28ペテロが言った、「ごらんなさい、わたしたちは自分の
ものを捨てて、あなたに従いました」。
29イエスは言われた、「よく聞いておくがよい。だれでも
神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子を捨てた者
は、
30必ずこの時代ではその幾倍もを受け、また、きたるべき
世では永遠の生命を受けるのである」。